

総務生活常任委員会

日時：令和5年10月25日（水）

午前9時30分から

場所：第1委員会室

1 所管課からの報告

〔市長戦略部〕

○ DX推進課

〔危機管理部〕

○ 危機管理課

〔行政経営部〕

○ 庁舎建設課

2 その他

生成AI(チャット GPT)の導入について

1 概要

生成AI(チャット GPT)については、本年4月以降、DX推進課において実証実験を行った結果を踏まえ、国が求めるセキュリティ基準を満たし、職員専用総合行政ネットワーク(LG-WAN)上で動作するシステムを全庁への本格導入に向けて8月下旬に実証実験を行いました。

並行して職員アンケート調査を実施し、業務利用に前向き且つ業務効率向上に寄与するとの結果が得られたことから、本年12月より本格導入しようとするものです。

2 これまでの経過

月 日	項 目	内 容
令和5年4月中旬	担当による実証実験開始	業務効率化、専門性を高めた活用、市のシステムやセキュリティ、ネットワーク等の親和性について確認
令和5年8月上旬	DX推進リーダーへの操作研修実施	生成AI知識習得、システム操作、ガイドライン周知
令和5年8月21日 ～令和5年9月1日	全庁実証実験期間	対象者800名にGPT3.5及びGPT4の利用環境を実証
令和5年8月21日 ～令和5年9月8日	実証実験に伴うアンケート調査期間	実証実験と並行し、職員アンケートを実施

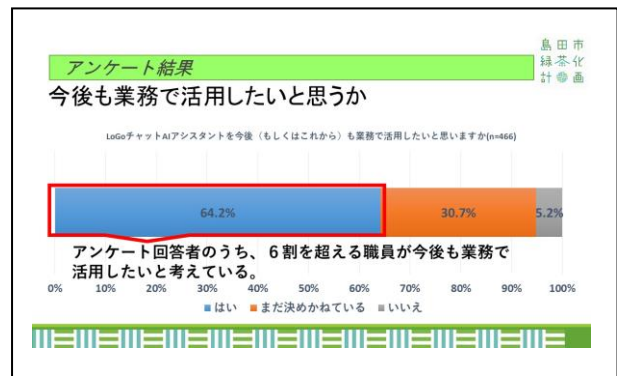
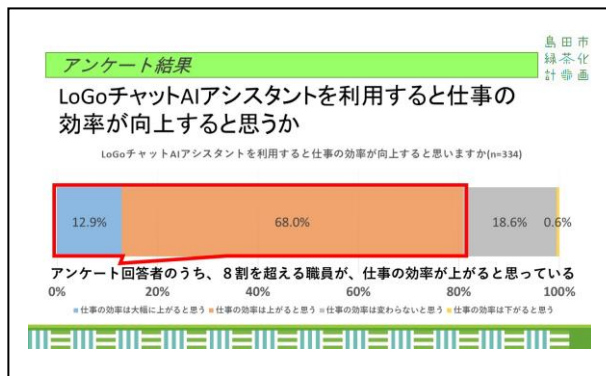
3 アンケート調査結果

職員を対象にアンケート調査を実施。

実証期間：令和5年8月21日(月)～9月1日(金) 12日間

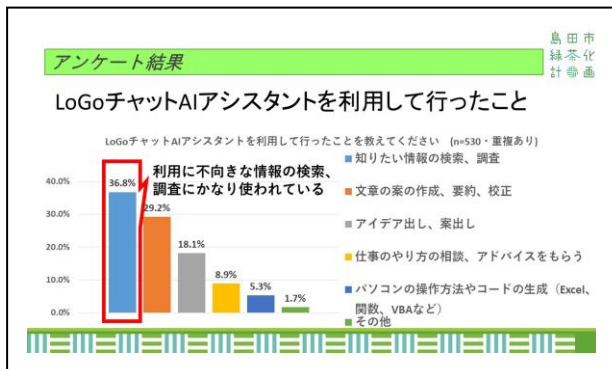
対象者：800人 アンケート回答者466人 (回答率58.25%)

消費文字数：GPT3.5約50万文字 GPT4約115万文字 ボットへの入力数：約3,000回



◎生成AIの業務利用には前向きな結果(アンケート回答者)

- ・約4割の職員がある程度利用している。
- ・8割以上の職員が、仕事の効率が向上すると感じている。
- ・6割以上の職員が、今後も生成AIを業務で活用したいと思っている。



◎利用の仕方、質問力に課題

- ・利用に不向きな情報の検索、調査に約4割が使われている。
- ・利用用途の約3割は、文章の案の作成、要約、校正が占めている。
- ・対面及びオンライン研修等により職員の質問力向上を図っていく必要がある。
- ・令和5年9月に包括連携協定を締結した、しずおか焼津信用金庫と合同で生成AI合同勉強会を開催予定(11月8日)

4 システム導入

アンケート結果等を踏まえ、必要なチャットシステムとともに全庁でシステム稼働

- ・使用エンジン：GPT-4 ・使用容量：上限200万文字／月
- ・個人情報検知機能を搭載し、入力した情報は学習に利用されません。
- ・令和5年度事業費：528千円（月額利用料・初期費用含む）は現計予算より流用し支出予定。
- ・システム稼働予定日：令和5年12月1日（金）

令和5年度島田市地域防災訓練の実施について

(危機管理部危機管理課)

1 訓練目的

南海トラフ巨大地震などの突発的に発生する大規模地震や近年、頻発、激甚化している台風による水災害・土砂災害の発生に対する防災知識及び災害対応能力の向上並びに地域防災力の強化を図ることを目的とする。

2 訓練実施日

令和5年12月3日(日) 午前9時から正午まで

※午前9時に市内にサイレン吹鳴及び緊急速報メールを配信する。

3 実施主体

島田市・自主防災組織・島田消防署・島田市消防団・自衛隊・関係団体

4 会場

島田市立川根小学校 体育館・グラウンド ほか

5 対象地区

川根町家山町内会(中部、東部、北部、西向)

6 実施訓練(予定)

訓練名称	参加対象
避難所開設運営訓練	市・避難所運営委員会・施設管理者
道路啓開訓練	市(建設班)・協定事業者
給水訓練	市(上下水道班)・自主防災組織
初期消火訓練	消防署・消防団・自主防災組織
ドローン情報収集・物資輸送訓練	市・協定事業者
土のう作成・改良積み土のう工訓練	消防団・自主防災組織
水難救助資機材展示訓練	自衛隊・消防署
防災備蓄食料展示・炊き出し訓練	自主防災組織・防災事業者
ペット同行避難訓練	獣医師会・動物保護団体・自主防災組織
救護所開設訓練	市(救護班)・医師会 ほか